調査団体名	白玉干草と八丁トンボを守る島田湿地の会	団体代表者名	浅井聡司
活動地域	名古屋市天白区　島田緑地	団体URL	http://www.nga.or.jp/partnership/member/shimada.html

＜活動内容＞

1989年11月に、住宅地開発で破壊される恐れのあった島田湿地を調査・保全するために同会を立ち上げた。
毎月、会員による生物調査と環境管理活動を行うとともに、名古屋市からの依頼で自然観察会を実施したりする。生物調査は、湿地植物の生育状況の把握やトンボ類など、湿地内での昆虫の生息状況把握などを行っている。
環境管理としては、シラタマホシクサを絶滅させないために種子を採取し撒くことや、ヨシ、ヌマガヤなど草丈が高くなり日陰をつくるものなどは、手抜きをしている。大変であるが、機械での一斉の草刈りなどはせず、人力を基本としている。ただし、作業量が多いので、業者の手を借りている。
外来生物の駆除も行っており、捕獲によりウシガエルを根絶。また、アメリカザリガニの個体数を抑制している。
COP10に向けて、島田湿地のガイドブックを作成することを検討している。
島田湿地には、貴重な生物が生息するが、特にハッチョウトンボは、名古屋市内では数カ所しかない生息地のうちの一つである。

＜連携している団体・専門家・自治体など＞

○湿地のある島田緑地は、名古屋市の管理地であり、行政とのパートナーシップで保全活動を進めている。
○毎年、県内の自治体持ち回りで開かれている湿地サミットに参加し、各地の湿地保全団体と交流がある。

＜今までに行った調査・研究＞

○湿地内の生物相調査の実施
○大学が行ったシラタマホシクサの遺伝子調査への協力など

＜現在直面している課題＞

外来種問題として、アメリカザリガニが根絶できないことと、セイヨウタヌキモが異常に繁茂し、在来生物に悪影響を与えており、その駆除が課題である。
会員に次の世代が育たない。人材育成が課題である。
湿地保全活動をいったい誰が、どのような体制で行っていくのかを真剣に考えないといけない。一部のボランティア任せでは、将来的な保全が難しい。

＜今後どんな情報が必要か＞

様々な人とネットワークもあり、必要な情報は、自分たちで集められる状況だと認識している。

観察会風景